

介護職員初任者研修カリキュラム（通信課程）

1 職務の理解（6時間）		
○到達目標・評価の基準		
<p>研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。</p>		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3	【講義】 ・介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス（居宅・施設）とそれ以外（障害者（児）サービス等）について理解する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	【講義】 ・多様な居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する。講師による講義の他、様々な働く現場について視聴覚教材を活用して理解を深める。 ・ケアプランに始まるサービス提供にいたるまでの一連の流れ、チームアプローチ、他職種との連携、地域社会資源との連携等、介護サービスの提供についてイメージを持たせる。
合計	6	

2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）				
○到達目標・評価の基準				
<p>介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。</p> <p>・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。</p> <p>・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。</p>				
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	5	1.5	3.5	【講義】 ・人権と尊厳の保持 ・QOL の考え方 ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要 【通信】 ・人権と尊厳の保持 ・QOL の考え方 ・ノーマライゼーション ・虐待防止・身体拘束禁止 ・個人の権利を守る制度の概要
②自立に向けた介護	4	0	4	【通信】 ・自立支援 ・介護予防
合計	9	1.5	7.5	

3 介護の基本 (6 時間)

○到達目標・評価の基準

介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

- ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
- ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
- ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
- ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	【講義】 ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種 【通信】 ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性 ・介護に関わる職種
②介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	【講義】 ・職業倫理 【通信】 ・職業倫理
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	1	1	【講義】 ・介護労働における安全の確保 ・事故予防 ・安全対策 ・感染対策 【通信】 ・介護労働における安全の確保 ・事故予防 ・安全対策 ・感染対策
④介護職の安全	1	0.5	0.5	【講義】 ・介護職員のこころの健康管理 ・介護職員のからだの健康管理 【通信】 ・介護職員のこころの健康管理 ・介護職員のからだの健康管理
合計	6	3	3	

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

○到達目標・評価の基準

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
- ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。

例：税が財源の半分であること、利用者負担割合

- ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
- ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。
- ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3	1	2	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景と目的 ・介護保険制度の動向 ・介護保険制度のしくみ ・介護サービスの分類と種類 ・主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設 ・保険給付以外の事業 【通信】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度創設の背景と目的 ・介護保険制度の動向 ・介護保険制度のしくみ ・介護サービスの分類と種類 ・主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設 ・保険給付以外の事業
②医療との連携と リハビリテーション	3	0	3	【通信】 <ul style="list-style-type: none"> ・介護における医療と福祉の連携 ・介護職と医行為 ・リハビリテーション
③障害者総合支援制度および その他制度	3	0.5	2.5	【講義】 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者自立支援制度の背景 ・障害者自立支援制度の基本的な構造 ・障害者総合支援法による自立支援制度のしくみと運営の現状 ・個人の権利を守るその他の制度 【通信】 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者自立支援制度の背景 ・障害者自立支援制度の基本的な構造 ・障害者総合支援法による自立支援制度のしくみと運営の現状 ・個人の権利を守るその他の制度
合計	9	1.5	7.5	

5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)

○到達目標・評価の基準

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。

- ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3	3	0	【講義】 ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・道具を用いたコミュニケーション ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	0	3	【通信】 ・記録による情報の共有化 ・介護サービスにおける報告、連絡、相談 ・コミュニケーションを促す環境
合計	6	3	3	

6 老化の理解 (6時間)

○到達目標・評価の基準

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

- ・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等

- ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3	0	【講義】 ・老化に伴うこころとからだの変化 ・老化に伴うこころとからだの変化と日常生活
②高齢者の健康	3	0	3	【通信】 ・高齢者と健康 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点
合計	6	3	3	

7 認知症の理解 (6 時間)

○到達目標・評価の基準

介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

- ・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。
- ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。
- ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。

例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。

- ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。
- ・家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1	0	1	【通信】 ・認知症ケアの理念
②医学的側面から見た認知症の 基礎と健康管理	2	1.5	0.5	【講義】 ・認知症の概念 ・認知症による障害 ・健康管理 【通信】 ・認知症の概念 ・認知症による障害 ・健康管理
③認知症に伴うこころとからだの 変化と日常生活	2	1.5	0.5	【講義】 ・中核症状 ・行動・心理症状 ・認知症の利用者への対応 【通信】 ・中核症状 ・行動・心理症状 ・認知症の利用者への対応
④家族への支援	1	0	1	【通信】 ・家族への支援
合計	6	3	3	

8 障害の理解 (3 時間)

○到達目標・評価の基準

障害の概念と ICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

- ・障害の概念と ICF について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1	0	1	【通信】 ・障害の概念 ・ ICF の考え方 ・障害者福祉の基本理念
②障害の医学的側面、生活障害、 心理・行動の特徴、かかわり支 援等の基礎的知識	1	1	0	【講義】 ・視覚障害 ・聴覚・平衡機能障害 ・音声・言語・咀嚼機能障害 ・肢体不自由 ・内部障害 障害の受容 ・知的障害 ・精神障害 ・高次脳機能障害 ・発達障害
③家族の心理、かかわり支援の 理解	1	0.5	0.5	【講義】 ・家族の心理 ・家族への支援 【講義】 ・家族の心理 ・家族への支援
合計	3	1.5	1.5	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）

○到達目標・評価の基準

介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やささまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
< I 基本知識の学習 >				
①介護の基本的な考え方	3	1.5	1.5	【講義】 ・理論と法的根拠に基づく介護 【通信】 ・理論と法的根拠に基づく介護
②介護に関するこころのしくみの 基礎的理解	3	1.5	1.5	【講義】 ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 【通信】 ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
③介護に関するからだのしくみの 基礎的理解	3	1.5	1.5	【講義】 ・人体の各部の名称と働きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ・中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える 【通信】 ・人体の各部の名称と働きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ・中枢神経系と末梢神経系に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・こころとからだを一体的に捉える
I 合計	9	4.5	4.5	

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
< II 生活支援技術の学習 >				
④生活と家事	3	1.5	1.5	【講義】 ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援 【通信】 ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援
⑤快適な居住環境整備と介護	3	1.5	1.5	【講義】 ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 【通信】 ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	【講義】 ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 【演習】 ・衣服の着脱支援技術について、具体的な事例を示しながら技術の習得を図る。 ・整容の支援技術について、具体的な事例を示しながら技術の習得を図る。 （洗面、整髪、爪の手入れ、口腔ケア、義歯）
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	15	15	0	【講義】 ・移動・移乗に関する基礎知識 ・さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 ・介護職員にとって負担の少ない移動・移乗の支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 【演習】 ・安楽な体位保持のための介助技術の習得を図る。 ・体位変換（水平移動・上部移動・側臥位・端座位から立位）の方法について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。 ・車いす、杖歩行介助について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。 ・上記介助において、利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法を学ぶ。
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	【講義】 ・食事に関する基礎知識 ・食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ・楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 【演習】 ・具体的な事例を示しながら介助技術習得を図る。（セミファーテ位と座位の介助、全介助と一部介助の方法） ・視覚障害者の食事介助技術の習得。

⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	4.5	1.5	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関する基礎知識 ・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・さまざまな入浴・清潔を保つための方法 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴介助、清拭と整容について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。 ・部分浴（手浴、足浴、陰部洗浄、洗髪）について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。 <p>【通信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関する基礎知識 ・さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ・さまざまな入浴・清潔を保つための方法 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識 ・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ介助の方法について、具体的な事例を示しながら介助技術の習得を図る。（ポータブルトイレ介助、オムツ交換、陰部洗浄、便器、尿器）
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3	0	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識 ・さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <p>【演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠について、具体的な事例を示し具体的な事例を示しグループワークにて検討・意見交換をし、その関わりについて理解を深める。
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	1.5	1.5	<p>【講義】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・「死」に向き合うところの理解 ・苦痛の少ない死への支援 <p>【通信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ・「死」に向き合うところの理解 ・苦痛の少ない死への支援
II 合計	51	45	6	

項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容及び演習の実施方法
<Ⅲ 生活支援技術演習>				
⑬介護過程の基礎的理解	3	1.5	1.5	【講義】 ・介護過程の展開 【通信】 ・介護過程の展開 【演習】 ・介護過程の基本的な流れについて、具体的な事例を示しグループワークにて介護計画の作成を行い、介護者としての関わりについて理解を深める。
⑭総合生活支援技術演習	12	12	0	【演習】 ・生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ○事例の提示→日常生活の状況→本人や家族の思いから今後の支援の方向性を検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例3時間程度で上のサイクルを実施する) ○事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施
Ⅲ合計	15	13.5	1.5	
合計	75	63	12	

10 振り返り (4時間)

○到達目標・評価の基準

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3	【講義】 ・学習到達度の振り返り
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	【講義】 ・質の向上と人材育成 ・事業所等における事例に学ぶ
合計	4	

	時間数	通学 時間数	通信 時間数
総時間数	130	89.5	40.5